

公立大学法人宮崎公立大学

平成22年度の業務実績に関する評価結果

平成23年 8月

宮崎市公立大学法人評価委員会

目次

1	公立大学法人宮崎公立大学の事業年度ごとの業務実績評価方法	…	1
2	全体評価	…	2
3	大項目別評価	…	4
4	平成22年度事業評価年度評価に係る項目別評価結果総括表	…	9

1 公立大学法人宮崎公立大学の事業年度ごとの業務実績評価方法

「項目別評価」及び「全体評価」により構成する。評価委員会は公立大学法人の作成した実績報告書をもとに、公立大学法人の意見を聴取しながら評価を行う。

なお、教育研究については、その成果が現れるまでには一定の期間を要することから、年度計画の評価は事業の進捗状況の確認等により行う。

(1) 小項目別評価（基礎資料）

年度計画の小項目記載事項ごとに、事業の進捗状況・実績について以下の4段階により評価を行う。公立大学法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を記載する。また、特記事項等についても記載する。

Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を順調に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施できていない
Ⅰ	年度計画を実施していない

(2) 大項目別評価

(1)の結果を基礎資料とし、年度計画の大項目(*)ごとに、以下の5段階により、その進捗状況・実績について評価を行う。なお、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

* 大項目

教育研究等の質の向上／業務運営の改善及び効率化／
財務内容の改善／自己点検・評価及びその情報公開／
その他の業務運営／予算

S	(秀)	特筆すべき進行状況にある（特に認める場合）
A	(優)	計画どおり（すべてⅢ～Ⅳ）
B	(良)	おおむね計画どおり（Ⅲ～Ⅳが9割以上）
C	(可)	やや遅れている（Ⅲ～Ⅳが9割未満）
D	(不可)	重大な改善事項がある（特に認める場合）

(3) 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、公立大学法人の業務全体の実績評価について、記述式により、年度計画や中期目標、中期計画を総括する。また、地域の高等教育機関として更に発展するために、大学の特色ある取り組みやさまざまな工夫について積極的に評価し、広く公表する。なお、必要に応じて組織や業務の課題や改善点等も記述する。

2 全体評価

(1) 総評

宮崎公立大学は、平成5年4月の開学以来、「高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた大学」という建学の理念のもと、教育研究や地域貢献の充実に積極的に取り組み、地域に開かれた大学として成長してきたところである。

さらに、大学に対する社会ニーズの多様化や少子化による大学全入時代を迎え、大学間競争が厳しくなるなど、大学を取り巻く環境が大きく変化する中、平成19年4月には地方独立行政法人に移行し、これらの社会情勢に迅速、的確に対応するとともに、経営の強化と教育・研究の充実に図っている。

法人化4年目に当たる平成22年度の業務実績について、その内容を点検した結果、年度計画に沿って、教育研究や地域貢献の充実に積極的に取り組んでいることがうかがえる。

教育研究については、学生が主体的に進路選択できるよう、キャリア教育科目の充実に図り、教員体制の見直しや実施方法の検討等が行われた。また、留学生に対して遠隔指導による単位取得を認めるなど、様々な取り組みが見られ、評価できるものである。

学生支援については、就職支援コーディネーターが年間延べ1,000件以上の企業訪問を行い、新規企業を開拓するなど、積極的な取り組みについて評価できるものである。現下の厳しい雇用情勢の中で、就職率90%を維持することができたのは、その取り組みの成果が出ているものと思われる。

学生確保については、口蹄疫問題で日程を変更したにも関わらず、オープンキャンパスの参加者が昨年度より100名以上上回っており、広報戦略ワーキンググループを立ち上げて取り組んだ効果が十分に現れたものとする。

さらに、地域貢献についても、宮崎市教育委員会との連携による小学校教諭向けの英語講座や市内中学校における英語学習アシスタント活動など、積極的に取り組んでおり、高く評価できるものである。

ハラスメント防止については、研修、啓発活動の充実に新たな規程の策定によるハラスメント防止対策委員会の機能強化など、取り組みに対する努力は評価するが、今後とも、更に取り組みを強化し、継続していく必要がある。

全体的には、平成22年度の業務実績については、中期目標、中期計画に基づいた年度計画に沿って、意欲的に業務に取り組みされており、概ね良好な進捗状況にあると評価できる。

中期目標、中期計画期間も折り返し地点を過ぎ、目標達成へ向け、今後の取り組みが重要となってくる。教育システムの充実に並びに学術研究、地域社会貢献及び地域との協働研究などにおける展開がさらに進めば、今以上に、活気のある大学となるものと思われる。

宮崎公立大学は平成23年4月から宮崎市が設立団体となり、新たなスタートを切ったが、引き続き、理事長、学長のリーダーシップの下、教職員が一体となった大学運営により、更なる魅力ある大学となるよう、着実に前進することを期待したい。

(2) 今後の課題

- ① 平成22年度大学教育・学生支援推進事業（GP）として「少人数ゼミで育むMMU学士基礎力」を申請したが、不採択であった。しかし、「MMU学士基礎力」を重視する方向性は、PACS（チェックリスト・システム）の運用とともに、自立性と公共性を備えた主体的な学生の養成の姿勢を示し、いかにも本学らしい取り組みである。評価結果を十分検証し、今後も熱意を持って取り組んでほしい。
- ② ハラスメント防止については、新たな規程の策定やハラスメント防止対策委員会の機能強化、学生や講師、相談員への研修の実施など、取り組みに対する努力は評価するが、セクシャルハラスメントが大学に与えた影響は大きく、今後、更なる啓発活動等、再発防止に向けた積極的な取り組みが必要である。
- ③ 学生の資質の向上のため、図書館ウェブサイトの刷新など、図書館の学生利用促進活動に力を入れてほしい。

3 大項目別評価

3-1 教育研究等の質の向上

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり）

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数96項目に対して、「年度計画を上回って実施している（Ⅳ評価）」又は「年度計画を順調に実施している（Ⅲ評価）」と評価した項目が90項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり）とする。

〔参考〕小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
96	9	81	6	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

- ・派遣留学生、国費留学生、認定留学生に対して、遠隔指導による単位取得を認めたことについては、国際化の推進の観点からも評価できる。

【「専門演習Ⅱ・Ⅲ」の単位数ならびに活動内容などの適正化】

- ・国際交流については、地域住民との多様な交流活動や他団体と連携した訪問受け入れなど、積極的な取り組みが多く見られる。

【国際交流に係る既存の体制の充実・整備】

- ・オープンキャンパスについて、口蹄疫問題で日程を変更したにも関わらず、参加者が昨年を約100名上回ったことは、周知方法の見直しや広報戦略ワーキンググループの活動などの努力の結果であり、大いに評価できる。

【大学祭等への高校生の参加呼びかけ及びキャンパスガイドの見直し】

【統一的・戦略的な広報の実施】

- ・バリアフリーならびにユニバーサルデザインの視点から施設の段差解消を行ったり、障害を持つ学生に配慮し、トイレ改修などを速やかに行うなど、迅速できめ細やかな対応は、大いに評価できる。

【ユニバーサルデザインへの対応】

イ 遅れている点

- ・学生の資質の向上を考えると、図書館の活用は重要な意味を持っており、利用促進に力を入れるべきだが、ウェブサイトの刷新に取り組むことができなかった。

【図書館の学生利用促進活動】

(3) 評価委員会の意見等

- ・就職支援活動は、今日、大学において重要な位置を占めている。就職後の学生の将来も視野に入れた、根源的な教育（日本語、品格の形成、社会スキル）なども取り入れてはどうか。

【「キャリア設計」の見直し】

- ・キャリア教育（目標・計画）は固定的にならないよう、現実との矛盾やギャップを考慮した慎重な指導が求められる。

【「キャリア設計」の見直し】

- ・中間発表については、その意義目的を確認して検討する必要があるのではないか。就職活動のことを考えると、無理に中間発表会をする必要はないのではないか。

【専門演習の成果発表機会の検討】

- ・社会人実践教養の講義を外部講師に任せきりではなく、担当職員が全ての講義を参観したことは評価できる。

【キャリア教育科目群と総合政策科目群の見直し・充実】

- ・インターンシップの運用を更に進めてはどうか。企業などの職場体験を通して「自己を知る」など、進路選択に役立つのではないか。

【キャリア教育科目群と総合政策科目群の見直し・充実】

- ・学生による授業評価については、シート等、すでに既成のひな型があるが、それらに頼らずにPACSの質的向上の努力の中で、より細密に公立大の学生の声を吸い上げる評価の項目を研究している姿勢がうかがえる。

【「学生による授業評価」調査方法と「FD実施要領」の再検討】

- ・学生の成績をGPA活用する方策の検討とともに、前提となる「各科目の成績評価自体の改善・最適化の必要性」が指摘されたことは評価に値する。

【GPA・CAP制度の検討】

- ・企業訪問年間1000件以上は、高く評価できる。

【就職活動支援室の連携強化】

- ・就職支援コーディネーターの企業訪問が活発に行われ、新規企業の開拓ができたことは評価できる。

【就職活動支援室の連携強化】

- ・就職率90%は、現下の経済情勢では評価できる。

【就職活動支援室の連携強化】

- ・教員や公務員志望の学生に対し、具体的な就職支援対策を施したことは評価できる。

【進路支援活動とキャリア教育との連携強化】

- ・キャリア教育科目の内容を見直し、低学年から学生の仕事に対する意識の醸成を図ったことは評価できる。

【進路支援活動とキャリア教育との連携強化】

- ・オープンキャンパスで参加が増えたことは、大いに評価できる。成果をあげるために、例えば大学のしおりを3種類作成するなど、きめ細かな対策が採られており、評価したい。

【統一的・戦略的な広報の実施】

- ・地域研究センターの業務について、目標・成果があまり周知されていない感じがする。外部資金の導入を視野に入れているのであれば、積極的な広報・啓発も必要ではないか。

【地域研究センターの体制強化】

- ・「ひむかかると競技会」は、さらに継続実施してほしい。学生による英語授業のアシスタントもよい試みである。

【教育委員会との連携】

3-2 業務運営の改善及び効率化

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり)

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数9項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
9	0	9	0	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

- ・特になし。

イ 遅れている点

- ・特になし。

(3) 評価委員会の意見等

- ・特になし。

3-3 財務内容の改善

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B (おおむね計画どおり)

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数10項目に対し、「年度計画を順調に実施している（Ⅲ評価）」と評価した項目が9項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり）とする。

〔参考〕小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
10	0	9	1	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

- ・特になし。

イ 遅れている点

- ・特になし。

(3) 評価委員会の意見等

- ・特になし。

3-4 教育研究・組織運営の状況の自己点検・評価及びその情報公開

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A（計画どおり）

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数4項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している（Ⅲ評価）」と評価したことから、A評価（計画どおり）とする。

〔参考〕小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
4	0	4	0	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

- ・特になし。

イ 遅れている点

- ・特になし。

(3) 評価委員会の意見等

- ・特になし。

3-5 その他業務運営

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり)

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数8項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
8	0	8	0	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

- ・特になし。

イ 遅れている点

- ・特になし。

(3) 評価委員会の意見等

- ・特になし。

4 平成22年度事業年度評価に係る項目別評価結果総括表

区分 (大項目) (中項目) (小項目)	項目数	項目別内訳				項目別構成割合				計	平均値	備考
		評価4	評価3	評価2	評価1	評価4	評価3	評価2	評価1			
		第2 教育研究等の質の向上に関する目標	96	9	81	6	0	9%	86%			
1 教育研究等の質の向上に関する目標	69	6	57	6	0	9%	83%	9%	0%	207	3.00	
(1)教育内容と方法に関する目標	19	4	14	1	0	21%	74%	5%	0%	60	3.16	■評価4:No.7、8、9、18 ■評価2:No.4
(2)教育支援体制に関する目標	9	0	8	1	0	0%	89%	11%	0%	26	2.89	■評価2:No.25
(3)学生支援に関する目標	23	2	18	3	0	9%	78%	13%	0%	68	2.96	■評価4:No.31、43 ■評価2:No.35、40、48 ■再掲:No.27、29
(4)学生の確保に関する目標	18	0	17	1	0	0%	94%	6%	0%	53	2.94	■評価2:No.68
2 研究に関する目標	14	0	14	0	0	0%	100%	0%	0%	42	3.00	
(1)研究の方向と水準の向上に関する目標	5	0	5	0	0	0%	100%	0%	0%	15	3.00	■再掲:No.20
(2)研究体制等の整備に関する目標	9	0	9	0	0	0%	100%	0%	0%	27	3.00	
3 地域貢献に関する目標	12	3	9	0	0	25%	75%	0%	0%	39	3.25	
(1)教育研究成果の地域への還元に関する目標	11	2	9	0	0	18%	82%	0%	0%	35	3.18	■評価4:No.89、90
(2)地域の国際化及び国際理解に関する目標	1	1	0	0	0	100%	0%	0%	0%	4	4.00	■評価4:No.95
4 魅力ある大学づくりに関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	9	0	9	0	0	0%	100%	0%	0%	27	3.00	
1 組織運営の改善に関する目標	6	0	6	0	0	0%	100%	0%	0%	18	3.00	
(1)機動的な運営体制の確立	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
(2)予算の戦略的で効率的な活用	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
(3)外部意見の積極的な活用	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
2 人事の適正化に関する目標	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	
(1)法人化のメリットを生かした人事制度の構築	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	
(2)人事評価制度の確立	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%	0	0.00	■再掲:No.20(2回)
第4 財務内容の改善に関する目標	10	0	9	1	0	0%	90%	10%	0%	29	2.90	
1 自己収入の増加に関する目標	6	0	5	1	0	0%	83%	17%	0%	17	2.83	■評価2:No.108
2 経費の抑制に関する目標	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	
3 資産の運用管理の改善に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00	
第5 教育研究・組織運営の状況の自己点検・評価及びその情報公開に関する目標	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00	
1 自己点検・評価に関する目標	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00	
第6 その他業務運営に関する重要目標	8	0	8	0	0	0%	100%	0%	0%	24	3.00	
1 施設設備の整備・活用等に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	■再掲:No.89
2 安全管理に関する目標	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00	
3 情報公開の推進に関する目標	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00	
4 人権に関する目標	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00	■再掲:No.37、38、39
合 計	127	9	111	7	0	7.1%	87.4%	5.5%	0.0%	383	3.02	